

「安全」は当たり前

ヒューストンには寒い2月最後の土曜日、今年で8回目となるANA航空教室が開催されました。お馴染みの「Another Sky」をBGMに、客室乗務員・山口朋子さんの機内アナウンスで、補習校の5年生を乗せたNH113特別便が、1時間35分の空の旅へテイク・オフ。子どもたちは、このフライトにどのような人たちが、どのように関わっているのか、プロの仕事に興味津々で取材しました。

まず多くの子供達が興味を持ったのは、大きな飛行機が空を飛ぶ仕組みと環境対策についてです。飛行機のお医者様でもあるIAH空港の大野直人・整備マネージャーが説明してくださいました。飛行機が飛ぶためには、羽の大きさや形が重要であり、「推力」と「抗力」、「揚力」と「重力」のバランスの変化によって、アフリカ象50頭分の重さの機体が空に浮かび上がるそうです。



また、ANAの環境への取り組みとして紹介されたのが、サメ肌を模した「リブレットフィルム」を機体表面に貼ることで空気抵抗を減らし、消費燃料とCO2の排出量を削減するというもの。さらに、定期的にエンジンを水洗いして汚れを除去し、燃費の良さを保っているそうです。

「着陸はもちろん難しいが、やり直しのできない離陸も難しい」とおっしゃるパイロットの田邊聡機長と岩崎雅彦機長。お二人からの、「ANAパイロットになるための3通りの道」については、特にパイロット志望の5年生たちにとって、将来設計に関わる興味深い内容となったようです。

そして、私たちが直接お世話になる機会の多い空港のグランドスタッフと客室乗務員。この日はそれぞれを代表して、ミルソップ康樹さんと山口さんが話してくださいました。朝5時から到着便の乗客に関する確認を行い、昼近くには出発便に手を振って見送るまでがグランドスタッフのお仕事。そして機内では、華やかさの裏で常に五感を働かせ、乗客の快適さと安全に常に気を配る客室乗務員のお仕事。見えない部分の細やかなお仕事ぶりに感心するとともに大いに納得させられました。

皆さんのお仕事に共通するのは、「安全を守るのは当然である」というこ



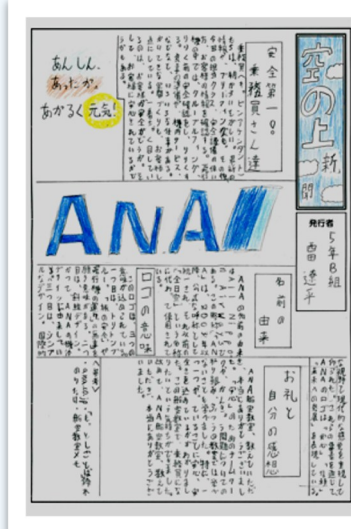
と。私たちがANAのフライトを予約するときに得られる「安心」は、それぞれのプロフェッショナルによる仕事とチームプレーの賜物であることを学びました。パイロットや客室乗務員、整備士のコスチュームを着て、本物の皆さんと記念撮影をしたり、直接お話を伺ったりして交流できたこの時間は、5年生にとって楽しく、そして貴重なフライト体験となりました。

この航空教室の実現にあたりご尽力くださいました、杉本定省ヒューストン支店長、ノーブルス佳子様に、心より感謝申し上げます。

(ヒューストン日本語補習校5年B組担任 片岡久美子)



▲ANA杉本ヒューストン支店長、客室乗務員 山口様、岩崎機長、田邊機長、グランドスタッフ ミルソップ様、大野整備マネージャー



▲5年生による航空教室についての新聞